

佳作

がんばれモンシロチョウ

福島県 福島市立野田小学校 三年 松本 陽菜乃

理科で、モンシロチョウのかんさつをしました。はじめて見ることばかりで、強心へのこっています。チョウは、たまごから幼虫、さなぎ、せい虫へと育ちます。食草が決まっています、同じチョウの間でも、食べる物がちがうことが分かりました。モンシロチョウはキャベツの葉、アゲハはサンショウやミカンの葉を食べて大きくなります。

モンシロチョウは、キャベツの葉のうらにたまごを生みます。わたしたちは、その一ミリメートルくらいの小さな、小さなたまごを虫めがねでかんさつしました。色は黄色で、まるでどうもろこしの実のような形をしています。つぶのかたまりにたも様も、どうもろこしにそっくりです。どれも色や形が、少しずつちがいました。はじめは、うすい黄色のたまごですが、だんだんオレンジ色へとかわっていくのです。元気なチョウになるように、みんなで大切に育てました。

幼虫は、体中に毛が生えていて、はじめ黄色ですが、キャベツの葉を食べはじめると、緑色になります。また、幼虫がはじめて口にするのが、たまごのカラです。赤ちやんが、さいしょにお母さんのおっぱいを飲むのと同じように、たまごのカラが、おっぱいの役目をしているように思えました。幼虫は、だっ皮をくり返して大きくなります。毎日、せい長していくので、かんさつが楽しみになりました。幼虫の足は十六本あり、頭の方は三角、おしりの方は丸い形をしていました。キャベツの葉を、もくも

くと食べているところがかわいいです。

四回だっ皮をした幼虫は、体に糸をかけてさなぎになります。つのが生えたようにとがっていて、糸でつながれているため、さかさまにしても取れませんでした。さなぎの色はまわりの色に近く、

「これが自然のかくし絵、ほご色なんだ。」と思いました。てきから上手に身をかくしています。わたしは、中の羽の色がすけて見えていくすがたに感動しました。さなぎの中では、何が起こっているのでしょうか。不思議です。そして、面白いです。

「がんばれ、がんばれ、モンシロチョウ。」さなぎの中から、せい虫が出てきた時は、もっと感動しました。ちぢんでいた羽が、ゆっくりと、ピンとのびていく様子を見ることができました。チョウの羽が、きれいでした。それが、とてもうれしかったです。

モンシロチョウが生んだ秋のたまごは、さなぎのままじっと冬をこします。こん虫は、すごいひみつをたくさん持っています。「なるほど」とおどろき、色々な発見がありました。これからも、こん虫の色々なことを知りたいです。わたしは、理科がもっと好きになりました。